

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4795500042		
法人名	新正クリーンサービス		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームみなみ		
所在地	宮古島市平良字下里3107-364		
自己評価作成日	令和2年 9月22日	評価結果市町村受理日	令和3年 2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=4795500042-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=4795500042-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和2年 10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

どの居室も日当たりや、風通りがよくまわりは緑に囲まれ長閑さを感じられます。家庭的な雰囲気作りを大切に、ゆったり、ゆっくりとした穏和な日常生活が送って頂けるように支援しています。又ご家族等の面会時には、気兼ねなくゆったりして頂けるように心掛けています。昔懐かしの歌や、島独自の旬の食材を使用した食事の提供をする事で、季節を感じながら食事をしている。また、彩やメニューを工夫しながら、楽しみが持てるよう提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念は、①楽しく笑顔で生活できる環境、②利用者の尊厳と自己決定を尊重、③地域との交流で絆を深める等、3つの柱で分かりやすく実践しやすい内容となっている。職員は、利用者の笑顔を引き出すため、方言を使って対応したり、利用者に合わせて食事提供を工夫し、毎日入浴を支援する等、本人の意向を尊重した支援を行っている。子どもたちが事業所のヤギに餌やりのため立ち寄る等、地域の幼稚園や小学校の子ども達と日常的に交流している。自治会主催の敬老会に利用者も参加し、事業所の敬老会等の行事に、地域の方が参加しサックスやギター演奏を披露している。運営推進会議の構成員に自治会会長と認知症家族会会長が参加している。利用者は、天気の良い日は敷地内の庭で体操したり、おやつ時間を過ごしたりしている。隣近所や近くの学校まで散歩や買い物等に出かけることもあり、長距離の歩行が困難な方は車いすを利用し、一緒に参加できるようにしている。美容室を利用したい利用者には、家族や職員が対応している。家族行事での外出や外泊も家族と協力しながら出かけられるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が、いつでも見える位置に理念を掲示している。月一回の会議でも理念に則ったサービス提供について話し合い、意見、ケアに対しての意見等出し合い、共有している。	事業所の理念は、①楽しく笑顔で生活できる環境、②利用者の尊厳と自己決定を尊重、③地域との交流で絆を深める等、3つの柱で分かりやすく、実践しやすい内容となっている。職員は、利用者の笑顔を引き出すため、方言を使って対応したり、利用者に合わせて食事提供を工夫し、毎日入浴を支援する等、本人の意向を尊重した支援をしている。地域の子どもや住民と日常的に交流している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入している為、毎年、自治会の敬老会や、小学校の運動会の観覧しつつ、つながりを深めている。また近隣の幼稚園、小学生の交流会や、行事の際にも他事業所から施設に来て頂き交流を深めている。	地域との交流については、自治会主催の敬老会に利用者也参加している。事業所の敬老会等の行事に、地域の方が参加し、サックスやギター演奏を披露している。運営推進会議の構成員に自治会会長と認知症家族会会長が参加している。近隣の幼稚園・小学校の運動会見学や大型店舗への買い物に出かけている。日常的に地域の子どもたちが事業所のヤギに餌やりのため立ち寄っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会、運営推進会議などを利用しながら地域の人々に向け発信しており、適宜利用者も交え意見を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を2か月に一回開催。会議資料を基に、情報の共有、疑問等には質疑応答時間を設け、意見やアドバイス等を受けている。また、興味のあるご家族へは声掛け、時々参加もあり。	運営推進会議は定期的に行われ、市職員や地域包括支援センター職員も毎回参加し、家族代表として、3家族がほぼ毎回参加している。知見者として同業の2か所の管理者が構成員となっており、その他、社協職員も参加する等、豊富な人材で運営し、事業所の状況や事故等の報告がされ、委員からの意見をもとに話し合われている。会議内容の記録の充実も期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者にも運営推進会議に参加して頂き、意見交換、情報交換してサービスに生かせるようにしている。双方分からないことがあるときには、多方面(他職種)からの情報共有が出来るよう、取り組んでいる。	市との連携としては、毎回、運営推進会議に参加している中で情報交換や研修案内等がある他、議事録や次回開催の案内を持参する際に交流を図っている。生活保護利用者が多数おり、ケースワーカーと連携している。市や県の研修で、計画作成担当者兼施設長がファシリテーターを務めたり、キャラバンメイト等を行ったこともあり、できるところは協力するよう取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員へは、毎月の研修会にて拘束への理解を得てもらい、利用者の日々の行動、状態等を観察の上、配慮したサービス提供が出来るようになっている。(散歩やレク、コミュニケーションを図るなど安全性を考慮した対応)拘束はしていない。また職員間で見守りの徹底を心掛け、利用者さんにとっても、職員にとっても落ち着いたケアが出来る。	利用者の尊厳を守り自己決定を尊重する理念のもと、身体拘束のないケアが実践されている。身体的拘束等の適正化のための指針をもとに毎月、職員間で身体拘束委員会が開催され、グレーゾーンである言葉の拘束等も話し合われ、会議録も作成されている。職員の資質向上として、ほぼ毎月、研修が行われ、身体拘束の有無に関するテストも実施して理解を深めている。職員会で話し合われた内容をもとに、運営推進会議の場における話し合いも期待したい。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員会議や施設内(動画研修)研修にて虐待防止について話し合っており、日々利用者の立場となって望ましいケアを徹底している。	虐待の防止の徹底として、身体拘束廃止に関する研修と一緒に虐待防止の研修を実施し、研修実施記録やミーティング記録として残している。ビデオによる高齢者虐待防止関連法の研修も行っている。日々の支援において、馴れ合いにならないように気を付けたり、イラッとする気持ちの自分自身を見つめ直したりと、ミーティング等で確認し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月一回、成年後見人の方と面談を行っている。また文書などで職員への理解を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族と面談を行い、十分な説明や情報提供を実施し双方の理解及び合意のもとで契約を締結している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が訪問する機会(運営推進会議、各月支払い、面会時、誕生会参加等)の折に面談し本人を交えて報告、相談を行うようにし、運営に反映させている。また、急を要する内容であれば施設からご家族へ連絡発信をして要望があればすぐに対応を行い、利用者やご家族が何でも言える雰囲気作りを心掛けている。	利用者や家族等の意見を尊重した支援については、利用者の「外に出たい」や「散歩したい」、「日光浴したい」の声をもとに対応し、「買い物に行きたい」に大型店舗に出かけている。家族の意向により、面会や受診、利用料支払い時に近隣的美容室に家族と一緒に出かけ、ヘアスタイルを整える利用者を支援したり、娘からの手紙を本人に読んでもらう支援をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員ミーティングの機会を設け、情報の共有や職員の提案を実践し、結果について話し合いを行いながらより良いケアの向上に努めている。また、勤務時間や休日等の希望は管理者が聞き、勤務体制に反映させている。	職員の意見を聞く機会を毎月職員会議を持つとともに、意見等を運営に反映する体制を整えている。飲料水のサーバーが欲しいとの意見を受け、今年の8月から設置している。職員からの提案で、食事を作るための大型鍋を購入し、誕生会や事業所の敬老会等の行事において、行事食やケーキ作り等に活用している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々の意見を傾聴できる環境作りを心掛け、常に意見を反映させ改善に取り組んでいる。又、毎年のベースアップやキャリアアップ制度も設けている。	就業環境として、事業所の就業規則や労働安全衛生法に則り対応している。勤務については、職員からの休みの希望や夜勤・日勤専属など、個々の希望も確認し、職員が働きやすい環境を整えている。健康診断の費用は、事業所が福利厚生として負担し、職員は計画的に受診している。管理者は職員の年休を把握し、本人希望はもとより、2か月に1回計画的に年休取得を促しており、ベースアップも行われている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の能力及び適正向上の為、施設内外研修や個人への指導を行っている。また、ICTを活用し利用者の気づきを共有、職員の経験の差をより縮めて均一なケア向上の為にミーティングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期にはあるが、グループホームやデイサービスを相互に訪問し、職員も交流を図っている。又、お互いの運営推進会議の委員として参加し合い、情報交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に面談し、本人の考え方を尊重しながら真摯な交流に重点を置いている。また、不安の受け止めや傾聴等、日々のケアから得た情報も、職員間の申し送りなどで共有し周知している。心療内科訪問診療等の際にも、病院スタッフと共に本人の希望や悩み聞いている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、本人が困っていること、できることやしたいこと、家族からの要望等を施設側とすり合わせて実行、対応している。また話しやすい雰囲気作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応についても、情報交換することで本人の希望や不安を見極め、互いの協力体制を確認し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の体力や身体機能に合わせて負担のない程度に家事の分担作業を行ったり、利用者同士で協力できるようサポートしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療受診の際や、本人に変化があった場合等、家族に情報共有し、必要な際はご協力頂いている。また、定期的に日用品の不足品を家族に持参してもらっている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族がいつでも来訪できるようにし、また家族へ外出、外泊等の支援をお願いしている。本人が馴染みの場へ出向く際は、職員や家族が対応している。(コロナ対策期間には、ガラス越しでの面会や、電話での状態報告)	馴染みの人や場との関係継続として、クリスチャンの利用者が教会に行きたいとの意向を受け、日曜日14時のミサへの参加を支援している。住んでいた自宅に行きたいとの利用者の要望で、ドライブがてら自宅付近に出かけたり、家族の協力を得て外泊支援をするなどし、馴染みの人や場との関係が途切れない支援に努めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年1月5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルを囲んで交流をする憩いの時間をつくり、利用者同士も円滑な人間関係を築きながら共同生活ができるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も相談があれば支援し、必要時は相談窓口を紹介するなど支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の希望を聞き、その人らしく少しでも希望の暮らしができるよう、個々の支援内容を検討し利用者本位に努めている。また、意思表示が困難な場合は本人の日々の動向から要望を汲めるよう、職員間で話し合いを行っている。	ほとんどの利用者と言語や共通語で会話を行っている。利用者が発する言葉をニーズとして捉え、本人の思いや意向の把握に努めている。家族から情報を得るなどしてこれまでの生活歴を重視し、対応している。具体的には、利用者と庭を散歩したり、ヤギの「タラちゃん」に餌を与えるなどしながら、日々の生活の中で利用者本位に検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回のアセスメントやご家族及び本人と日常で接して情報を本人から収集し、日々役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者の状況、行動、パターンを確認し声掛けしている。また、職員間の申し送りを通して日々の変化や気づきを共有している。		

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年1月5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の気づきを職員間で共有し、本人のケアや対応の改善に努めている。また、家庭での様子や施設に居る時の印象などを話し合い、家族からの情報もサポートの向上に繋げている。	介護計画は、長期目標が介護保険の有効期間で、短期目標が1年となっている。アセスメントやモニタリングが行なわれ、介護保険更新時等は、家族や本人を交えて話し合いが行なわれている。介護計画には、洗濯物たたみや服薬しやすいよう黒糖に混ぜる等の支援内容が記載され、本人の状況に変化があった場合は見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や申し送り等で、些細な気づきでも共有できるようにしている。全体会議等で職員(現場)の提案や意見を実践し個別の支援を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の突発的な要求にも、常にご家族と連絡を取りながら、柔軟に対応している。(病院、外出、レクリエーション、デイサービス利用等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練時には、地域自治会の方や近隣の方へも参加して頂いている。(コロナ予防対策の為、幼稚園、小学校、地域行事等の出入りや、参加中止)		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医は基本的に変わらず、継続して受診をしている。転院、入院にも対応している。また、定期的な訪問診療にて、利用者の変化などを報告し、すぐに対応できるようにしている。	利用者や家族の希望で、入居前の主治医を継続して受診している。外来受診が1人、訪問診療利用は8人となっている。受診時に主治医へ体重や血圧等の現状報告をし、連絡等は主に電話等で行っている。訪問診療は職員対応で、重要な場合は家族へ電話で知らせている。他科受診時は家族の対応が義務となっているが、家族が難しい場合は職員が対応している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との医療連携を図り、定期訪問時に状態報告、個々の健康状態の確認を行っている。状況によって助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状況について、最低限のデータや症病歴を提供し看護師と医療連携を行っている。また、入院中から退院まで管理者・主任を窓口とし医師、看護師、理学療法士等との情報交換や相談を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては基本的に行っていないが、入所時にある程度方向性を話し合い、必要な段階には、家族を含め、主治医と十分な話し合いを行い、スタッフ全員での支援に取り組んでいる。	看取りについては、基本的には行わないことになっており、入居時に事業所の方針を家族に説明している。利用者の病状悪化等による重度化や終末期においては、家族や主治医、職員も含めて、全員で利用者の情報を共有し、話し合いの上、適切な医療施設等への入所・入院に繋がれるよう支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時マニュアルを壁に張り出しており、急変時にも速やかに対応できるように備えている。また、月1回の全体会議でもマニュアルを見直し話し合いを行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練・消火訓練を行っており(内1回夜間想定)、地域の方にも参加して頂いている。利用者の安全な避難方法を確認し、課題があればその場で話し合い安全向上に努めている。また、台風などの災害を想定した備蓄品・発電機なども常に備えている。	年に2回、昼夜を想定した避難訓練、消火訓練を実施している。台風等の災害を想定した食料や水等の備蓄品、発電機等も常時備えている。昨年9月の台風時には3日間の停電が続いたが、自家発電を使用するとともに、水や食材等の備蓄により日常生活には殆ど支障なく過ごしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	着替えや、排泄の際は周囲に配慮し、さりげなく誘導・対応している。利用者に対する言葉使いも、配慮するよう注意し合いながら業務についている。適宜内部で情報交換や勉強会も行っている。	着替えや排泄の際、特に排泄の失敗時は利用者の尊厳を傷つけてしまう恐れがあるため、周囲に配慮し、さりげない誘導・対応をしている。利用者に対する職員の言葉使いも「トイレ」や「待って」等の言葉は使わないようにしている。定期的に内部での勉強会を開催し、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりのペースで支援できるようにゆっくりとコミュニケーションを図って傾聴・観察したり、時には本人の意思決定を尊重する為に一歩引いた見守りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行動を押し付けることなく、本人の気持ちやタイミング(体調)に合わせ、入浴、睡眠、食事のパターンを変えたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容をしっかりと行い、外出時は身だしなみに気を付け本人の好みを汲み取った装いで出かけている。1~2か月に一回、散髪を行い清潔感を保てるようにしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や、旬のものを取り入れたり、行事ではお祝い御膳、誕生日・節句でも季節感のあるメニューを提供している。利用者それぞれの力に対応して、茶わん洗いや下ごしらえも手伝って頂いている。時々外食をする事で食べる喜びに繋げるよう工夫している。	「日常生活の場として利用者と一緒に食事を作ることが良い」との考えから食事は事業所内で調理している。野菜の皮むきや食器洗い等を利用者も一緒に行なっている。食事の自己摂取ができない方がおり、食事介助をしているため、職員は同じ時間に食事ができないが、利用者と同じ食事を摂るようにしている。行事の祝い膳やケーキ等も手作りで提供している。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和3年1月5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事摂取量のチェックを行っている。水分量が少ない方には牛乳やお茶ゼリー等を提供し、水分補給に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。自己にて出来ない方には介助している。義歯の洗浄剤も使用誤嚥性肺炎の予防に気を付けている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の行動パターンを読み対応している。トイレの位置がわからなくなる利用者には適宜声掛けを行い、できる限り本人持ち込みの下着を使用する事で不快感やおむつ使用を減らしている。夜間のみポータブルトイレ対応の方もいる。	個々の排泄記録をタブレットに入力し、排泄パターン情報を職員で共有している。自ら排泄を訴える利用者には、その都度対応している。リハビリパンツ等を使用している利用者には、タブレットでの情報を活用し、個々に声かけを行うなどして排泄支援を行なっている。日中は利用者全員にトイレ排泄を支援し、夜間はポータブルトイレの使用を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に配慮し、適時の水分補給と食物繊維豊富な食材をメニューに取り入れている。10時・15時にはリハビリをかねての運動や空き時間を利用しての散歩を行い、ストレスの無い生活が送れるように支援している。また、排便チェック表を作成し排便の周期を観察し対応し、便秘や下痢が続く場合は医師に報告し指示を受けている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な曜日は決まっているが、希望する方にはその時々を実施し、又は拒否する方やその日の体調に応じて、タイミングを見て気持ち良く入浴して頂けるようにしている。特に、羞恥心に配慮し、なるべくは同性介助を行うようにしている。	入浴については利用者本人の希望を聞き、昼でも夕方でも入れるようにし、毎日入浴する方もいる。基本的には同性介助としている。入浴拒否のある人へは無理強いせず、時間をかけて声かけしながら対応しているが、清潔保持のため、4、5日空けずに入浴できるようにしている。使い慣れた石鹸を使いたい利用者には、家族に持参してもらい使用できるようにしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間の設定は無く、本人の意思で自由に休んで頂けるよう支援している。体調や習慣に合わせて午睡の支援も行っている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が分担して三ヶ月に一度のサイクルで担当を決め、全員が個々の薬剤を把握できるようにしている。また薬剤の変化があれば職員間で情報共有している。	服薬管理については、3か月毎に利用者担当職員を決め職員全員が用法や容量を把握できるようにしている。1週間分を担当職員がセットし、個々の薬ケースへ入れて、服薬時には職員2人でチェックし、空き袋も残している。半年前の誤薬後の改善策として、「同じような薬ケースを使わない、名前を大きく書く、服用前に薬の確認を行なう」等の対応を行うこととし、現在までの6か月間誤薬"0"を継続している。服薬支援に関するマニュアルは確認できなかった。	服薬支援に関するマニュアルの作成が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の興味や関心事やできる事に合わせてドライブやレク、家事等へ参加する事で意欲的に生活できるよう支援している。また、本人が元々好む趣味(ラジオ・テレビ等)に対応できるようにしている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や日光浴、日用品の買い物をする事で、気分転換を図り、穏やかな生活ができるよう支援している。また、家族行事での外出や外泊の場合は安心した時間が過ごせるよう家族へ本人の状況を共有している。	天気の良い日は敷地内の庭で体操したり、おやつ時間を過ごしたりしている。庭にはペットのヤギが飼われていて、毎日眺めることができる。隣近所や近くの学校まで散歩や買い物等に出かけている。長距離の歩行が困難な方は車いすを利用し一緒に参加できるようにしている。美容室を利用したい利用者には、家族や職員が対応している。家族行事での外出や外泊も家族と協力しながら出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所としてはお金の預かりはせず成年後見人が家族が管理している。少額のみ本人が使えるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和3年1月5日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親族への電話は本人の希望があれば職員が繋いだり、自らが電話を掛けたりできるよう配慮している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間や居室の清掃を、週3回外部の就労者支援団体に委託して行い、常に清潔に保ち、気持ちよく利用できるようにしている。また、利用者が普段過ごすホールでは季節毎に手作りの飾り付けでアットホームな雰囲気作りをしている。トイレも3か所あり、不便なく使用している。	週3回清掃を委託することで共有空間が清潔に保たれている。居間兼食堂には、対面キッチンがあり、利用者が食事を作っている包丁の音や匂いを感じられるゆったりとした空間となっている。ホールではレク活動を行ったり、洗濯物たたみを行なう利用者もいる。テレビの音はその時々で調整し、耳障りがないように配慮されている。トイレの掃除も行き届いており、気持ちよく利用できる状態であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	開けたホール内で、TV観賞・交流・手作業等、各々が好きな事に取り組めるような空間を提供し、状態に合った対応をしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使いなれてきた家具や愛着のあるものをもって来てもらい不安感を軽減している。家族と相談をしつつ、本人の日々の行動パターンを観察しながら、家具の数や位置にも配慮している。壁に写真なども貼って喜びを持てるようにしている。	居室の清掃も週3回の外部委託により行われ、清潔が保たれている。居室には仏壇やソファ、冷蔵庫、テレビ、テーブル、毛布、布団等、利用者が自宅で使用していた馴染みのものが持ち込まれている。壁にはカレンダーや写真等を飾り、本人が安心して過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできる事を理解し、その人の力に応じた行動を尊重し見守り、且つ安全に過ごせるように配慮している。施設内では見通しの良い間取りを活かし職員が臨機応変に対応できるようになっている。		